

平成 27 年度 第 1 回練馬区立生涯学習センター運営懇談会 会議録（概要）

- 1 日時 平成 27 年 8 月 21 日（金） 午後 3 時～4 時 10 分
- 2 場所 生涯学習センター 第 1 教室
- 3 出席者 川井会長、中島委員、長富委員、田村委員、尼子委員、小澤委員、
岩田委員（練馬区教育委員会事務局社会教育主事）
（練馬区）地域文化部長、文化・生涯学習課長
（事務局）生涯学習センター所長、副所長、主事
- 4 欠席者 漆澤委員、井藤委員、岡本委員、津久井委員
- 5 傍聴者 2 名
- 6 次第
 - (1) 地域文化部長あいさつ
 - (2) 文化・生涯学習課事務局職員紹介
 - (3) 議題
 - 平成 26 年度事業結果報告について
 - 平成 27 年度事業結果報告（4 月～7 月）および事業予定について
 - 公共施設予約システムの更新について
 - その他
- 7 その他
- 8 配布資料
 - 資料 1 平成 26 年・27 年度練馬区立生涯学習センター運営懇談会委員名簿
 - 資料 2 平成 26 年度事業結果報告
 - 資料 3 平成 26 年度施設利用実績
 - 資料 4 平成 27 年度事業結果中間報告および事業予定
 - 資料 5 公共施設予約システムの更新について
 - 参考資料 みどりの風吹くまちにあ・そ・ぶ～練馬区学びと文化の推進プラン～

9 会議の概要

(1) 地域文化部長挨拶

木村勝巳地域文化部長挨拶

(2) 文化・生涯学習課事務局職員紹介

職員自己紹介

(3) 議題

平成 26 年度事業結果報告

所長より資料 2 に基づき説明（内容省略）

平成 26 年度施設利用実績

所長より資料 3 に基づき説明（内容省略）

平成 27 年度事業結果報告および事業予定について

所長より資料 4 に基づき説明（内容省略）

（ についての意見、質問等）

<座長> いろいろな活動等計画を立てていただき、満足度もかなり高いが、利用状況が少し伸び悩んでいる。この会は、年に 2 度しかない。何か、良い知恵を出してほしい。生涯学習の「学」は「楽」でもある。手工芸作家連盟も 20 周年事業で音楽塾に演奏をお願いする予定。快く受けて頂いた。単独の事業もよいが、一緒になって楽しんでいく、長い人生、自分探しをしていただくのが生涯学習。皆で活発にセンターを利用していただくためにも、他の事業とコラボレーションしていくなど、皆で知恵を出し合いたい。ここで発言していただいたものは、センターにもいろいろ取り入れて頂いている。皆、一言ずつご意見いただきたい。

<委員> サークル文化祭舞台発表会は、年 1 回開催している。サークル文化祭を 6 月の 1 回開催だけでなく、年 2 回に増やしてもよいのではないか。自分たちの楽しみでもあり、励みにもなる。

<座長> いろんな考えがある。物を作る側の意見としては、作品制作には一定の時間を要するため、2 回開催は難しいのではとの思いもある。事務局で検討してほしい。

<委員> 利用率が下がっている実感はない。昔に比べて部屋が予約しづらくなっているとひしひしと感じている。部屋の利用率が低下傾向との報告だったが、利用者の実感と異なる。火曜と水曜の利用率が低い。木曜日が使いやすいのか。意外であるが、土曜日、日曜日でも利用率の低いところがある。土日は仕事をもっている人が利用する曜日だと思う。土日の利用率を上げていく方法を何か考えた方がよいと思

- う。
- < 所長 > 提出した資料について、誤解を与える表記となっていた。訂正する。月曜日の利用率は低い。
- < 委員 > サークル文化祭の作品展は、スタンプラリーやチャリティなども行って、以前よりずっと人が多く集まり、にぎやかになってきている。
- < 座長 > サークル文化祭が本当ににぎやかになっていると感じる。皆さん努力されていると思っている。
- < 委員 > 各事業の満足度が高いと報告があったが、逆に次の講座につなげていくには、どの辺が不満足だったかということが大事なのではないか。不満足の理由で多いものはあるか。学習形態として、座学的ではなく皆で話し合いをするようなものを希望するというものがあれば、そのような意見も取り入れていってはどうか。
- < 委員 > お笑いライブの出演料は。
- < 所長 > 出演料は支払っていない。座・サポーターズは、謝礼はないが、区が平日の夜間に空いたホールの提供と広報を行うという事業である。
- < 委員 > セミプロか。
- < 所長 > 芸歴 3 ~ 5 年くらいの方。発表の場を求めている。
- < 委員 > 企業の社会貢献としてのお笑いライブをやっているところがある。有料のところもあるが、無料でやっているのはすばらしい。
- < 委員 > 介護保険制度や介護予防についての知識のない方が多い。いろいろな機会を使って、元気高齢者に向けての講座にもこのような要素を組み込んで、福祉部門とタイアップして実施してみてもどうか。
- < 委員 > 分館では、今年度から En カレッジが始まり、情報センターも開設された。事業者に委託していると聞いている。本館である生涯学習センターとしての今後の方向性は。
- < 所長 > みどりの風吹くまちにあそぶ、学びと文化の推進プランの実行にあたって、生涯学習センターにおける情報センターの機能は、大変重要であると考えている。設置場所は分館のままがよいのか、センターに設置するのがよいのか検討している。いずれにしても、皆さんに情報を適切に提供できるように、またいろいろな相談に乗れるようにしていくことが大切と考えている。
- < 委員 > これだけの事業をやっているのに区民にあまり知られていない。もっと区民に注目してもらえるような方法を。字を大きくする、表記を工夫するなど、高齢者にもわかるように。問い合わせても、言葉が難しくてわからないことも多い。わかりやすく、皆に浸透するような言葉を使ってほしい。また、子どもや親にも教育していく必要がある。委員として後押しし支援していきたい。

公共施設予約システムの更新について
所長より資料5を基に説明(内容省略)

(についての意見、質問等)

- <座長>新しいシステムを導入しても、落ち着くまで時間かかるだろうと思う。皆、すぐに理解できるだろうか。
- <副委員>1時間単位は良い方法なのか。
- <委員>部屋が空いているよりはいいのでは。空いていてはもったいない。1時間でも使ってもらった方がよいと思う。
- <座長>1時間くらいで終わる会もある。午前、午後の枠で予約されていると、使いたい方が使えないという意見が前に出ている。悪い方法ではないと思うが。
- <文化・生涯学習課長>前にも、1時間単位での利用について意見をもらった。アンケート結果では、現状維持を希望する方が多かった。このため、最初(2か月前)からの1時間貸しはしないこととした。2か月前の予約時は枠貸しとしている。予定が決まっている場合は枠でしか取れない。1か月前になって空いていれば1時間でもどうぞ利用してくださいという考えである。したがって、これまでと基本は同じである。
- <座長>確かに多くの方が、午前、午後、夜間の枠で貸してほしいとしている。それがベストだと思う。ただ、空いているともったいない。1時間でも2時間でも借りたいたいという人がいるかもしれない。こんないい建物を空けておくのはもったいない。一人でも多く使ってもらおうということ。前回も同様の話が出ていたように思う。
- <委員>地域集会施設予約システムと一緒にするのか。
- <文化・生涯学習課長>新公共施設予約システムにおいては、まだ、地域集会施設予約システムとは統合していないので、地域集会施設予約システムを見ることはできない。将来統合できるよう検討していく。そのため、ポータルサイト(入り口)に地域集会施設予約システムのアイコンだけは作っておく予定。なお、区民産業プラザと練馬文化センター、大泉学園ゆめりあは、公共施設予約システムに新たに統合されるので、同じシステム内で検索できるようになる。また、現システムでは、まず、「生涯学習センター」といった施設を選んでから、予約を選択している。新システムでは、他の施設についても空き状況が一覧できるようになる。
- <委員>地区区民館と地域集会所は、地域集会施設予約システムで4か月前から予約できる。このため、公共施設予約システムで外れた場合に備えて、先に地域集会施設予約システムで部屋押さえている。そうしないと、毎週同じ時間帯に活動できない。現状としては、4か月前から予約できる地域集会施設予約システムで先に部屋を予約しておいて、2か月前に公共施設予約システムで部屋が取れたら不要になった地区区民館と地域集会所の部屋をキャンセルすることになる。システムとして良

いようであって悪いところもある。したがって、地域集会施設は予約時に一杯になっても、実際に利用するとは限らない。

< 委員 > 毎週同じ日にち、同じ枠を年間通じて利用したいと考えており、予約できる枠はすべて押さえているが、本日配付された平成 26 年度部屋別・曜日別・時間帯別の利用率の表において、利用率が 100%になっていないがどうしてか。

< 副所長 > 本日の資料の利用統計は、施設利用カード(施設利用後に利用者が報告する書類)をもとに集計したものであり、利用予約状況の統計ではない。このため、キャンセルや予約していたが実際には利用しなかった場合などは、利用実績がないものとして統計処理しているためである。

< 委員 > キャンセルはいつ解除になっているのか。

< 副所長 > 主催事業等押さえている場合は、予定がはっきりした段階で解除するようにしている。当日の実施状況の中で利用しなくなる場合もある。

< 座長 > 予約できていないと大変なことになるが、予約を取る側も、他施設で予約できた場合は取らない等、お互い考えてよい方法になったらよいと思う。

その他

< 座長 > その他、何かあれば発言を。

< 文化・生涯学習課長 > 「みどりの風吹くまちにあ・そ・ぶ、～練馬区学びと文化の推進プラン～」の印刷ができたので、配付させていただく。前回お示した素案に対し、パブリックコメントと議会報告を経て完成させたものである。お目通しいただきたい。前回と大きくは変わってはいない。

< 委員 > 学びと文化の推進プランはどこに置いてあるのか。

< 課長 > 印刷部数に限りがあり、施設に置いていない。ホームページで出力できる。

< 座長 > 次回の運営懇談会は 3 月。回数が少ない中で、皆さんと意見を交換して、とてもいい方向にいらっているように思う。その他、何か意見があればどうぞ。

< 文化・生涯学習課長 > 公共施設予約システムが変わるにあたっては、これから説明会をやっていく。システムが変わることについて、周知のご協力をお願いしたい。ポスター等広報の方法については、現在検討中。9 月からの議会に「練馬区立生涯学習センター条例」の一部改正の議案を提出する。10 月には条例が決まる。

< 座長 > さまざまなところで、区報に記事をなかなか載せてもらえないと聞く。区民文化祭など、これまでより大きく紙面の確保ができないか。特にお願いしたい。

< 所長 > 主催事業でも定例的なものはカットされることがあるが、広報広聴課には、要望を出しているところである。

< 委員 > すばらしい事業やっているのに、他の委員からも話があったとおりに知っている人が少ない。PR に工夫がほしい。

< 委員 > 区報だけの広報ではなく、フリーペーパーやミニコミ誌に掲載していく方法

はないか。先方も記事を探している。少しでも多くの目に留まるようにしたい。自分たちの会員には説明していきたい。口コミも大切。行政だけではなく、我々も考えていかなければならない。

- <文化・生涯学習課長> 大きな事業の時には、ミニコミ誌等にも記事を提供している。現在、独自のホームページを作成して文化や学びの情報発信をしていきたいと思っている。課内PTで検討中である。
- <座長> パソコン操作に弱い者もいる。ホームページにアクセスできるのか心配。全部でなくてよい、事業のダイジェスト版などの発行を検討しては。
- <所長> 生涯学習センターだよりを年4回発行し、区内の施設に置いてもらっている。宣伝していただければありがたい。次回は9月発行予定。
- <副座長> 皆さんにさまざま意見を出していただき、無事に懇談会が運営できた。これで懇談会を終了する。